

大熊町第二次復興計画(中間報告)に対するアンケート集計結果

平成 27 年 3 月

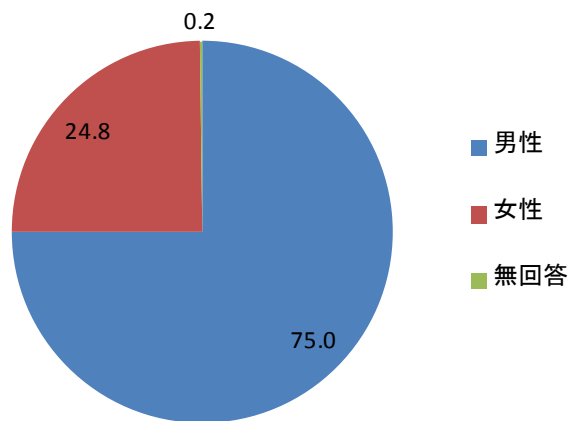
大熊町役場

集計結果の報告

- ・実施期間： 2014 年 12 月 15 日～2015 年 1 月 20 日
- ・発送数： 約 5,400 世帯
- ・回収数： 568 通
- ・回収率： 約 10.5%

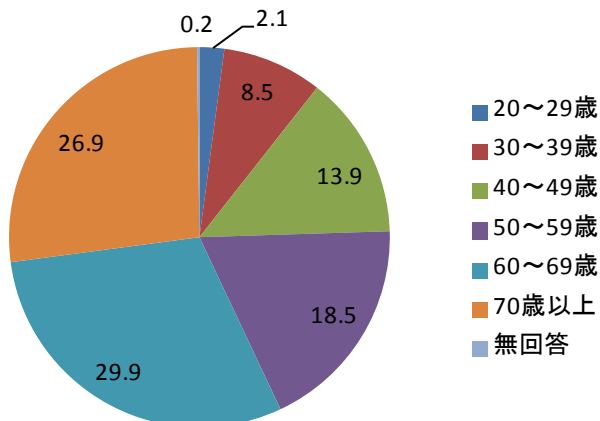
■性別

世帯主を対象としていることもあり、男性が全体の 4 分の 3、女性が全体の 4 分の 1 となっている。



■年代

世帯主を対象としていることもあり、回答者の年代は 60～69 歳が 29.9%と最も割合が高く、次いで 70 歳以上が 26.9%、50～59 歳が 18.5%、40～49 歳が 13.9%となっている。

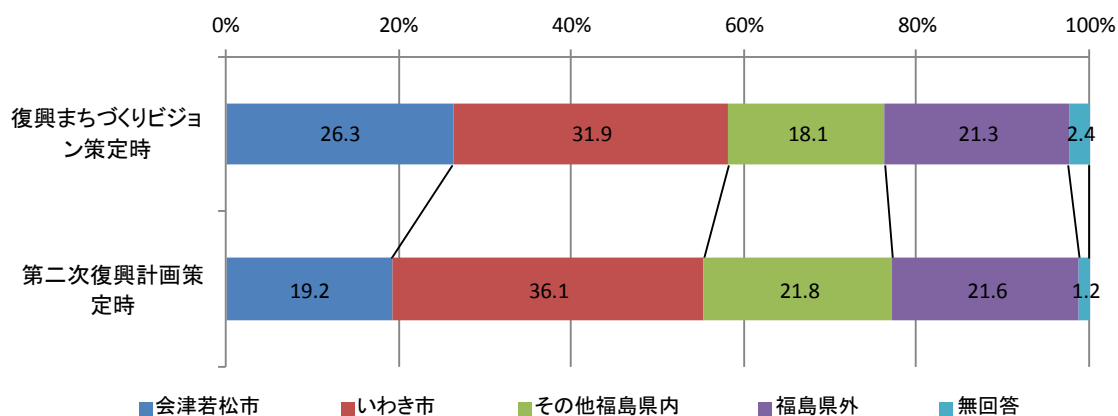


■居住地

福島県内が約 8 割、福島県外が約 2 割となっている。

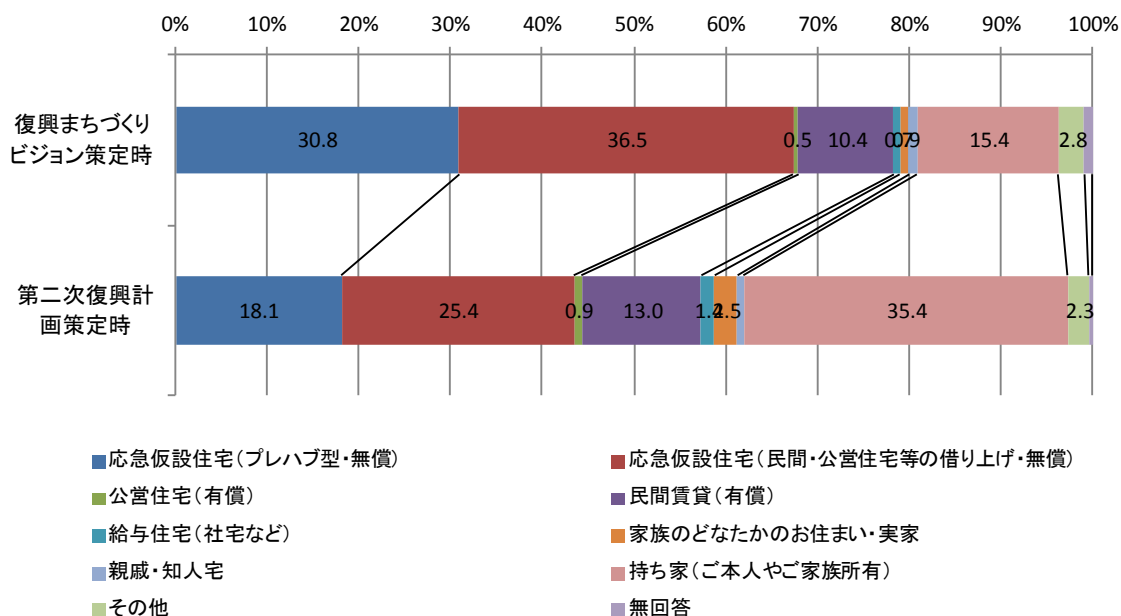
福島県内ではいわき市が 36.1%と最も割合が高く、次いで会津若松市が 19.2%、郡山市が 10.7%と続いている。その他の福島県内の市町村は合計で 11.1%となっている。

福島県外では埼玉県が最も多く、次いで茨城県となっている。



■住居の種類

住居の種類としては、持ち家が 35.4%と全体の 3 分の 1 を占め、最も多くなっている。復興まちづくりビジョン策定時のアンケート（2014 年 1 月実施）と比較すると、プレハブ型・借上げ型と合わせて 7 割を超えていた応急仮設住宅が 4 割強まで減少し、その分だけ持ち家が増加する形となっている。

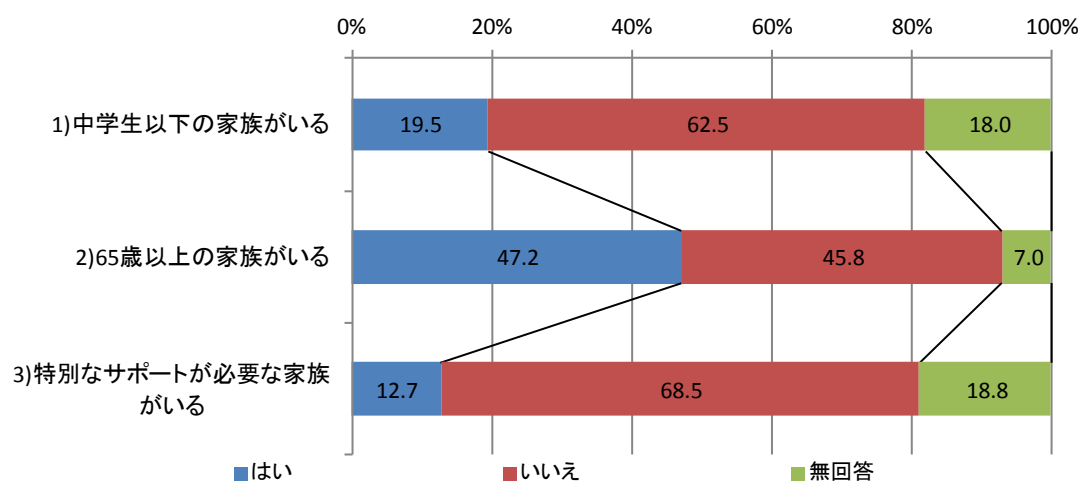


■同居されているご家族の状況

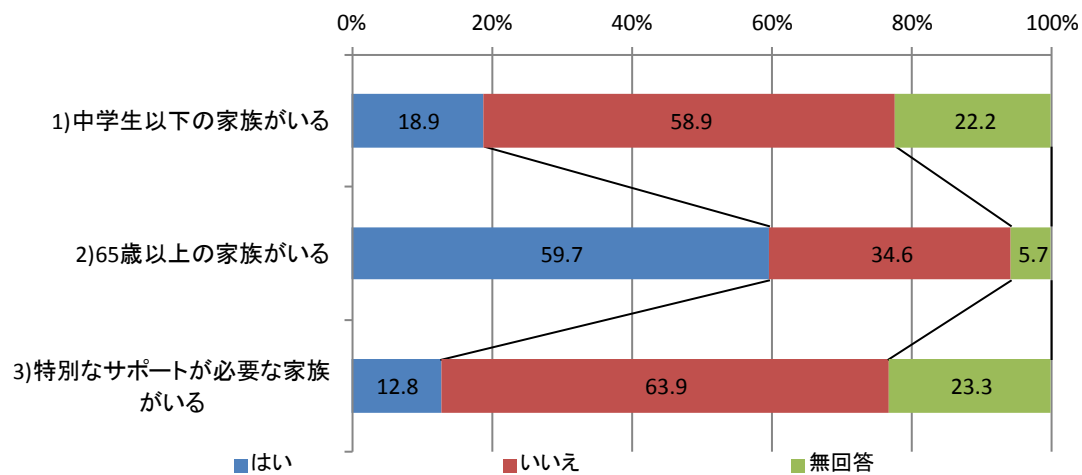
中学生以下の家族がいる家庭が約2割、65歳以上の家族がいる家庭が5割弱、特別なサポートが必要な家庭が1割強となっている。

なお、復興まちづくりビジョン策定時のアンケート（2014年1月実施）と比較すると、特に65歳以上の家族がいる家庭の割合が1割以上低下している。

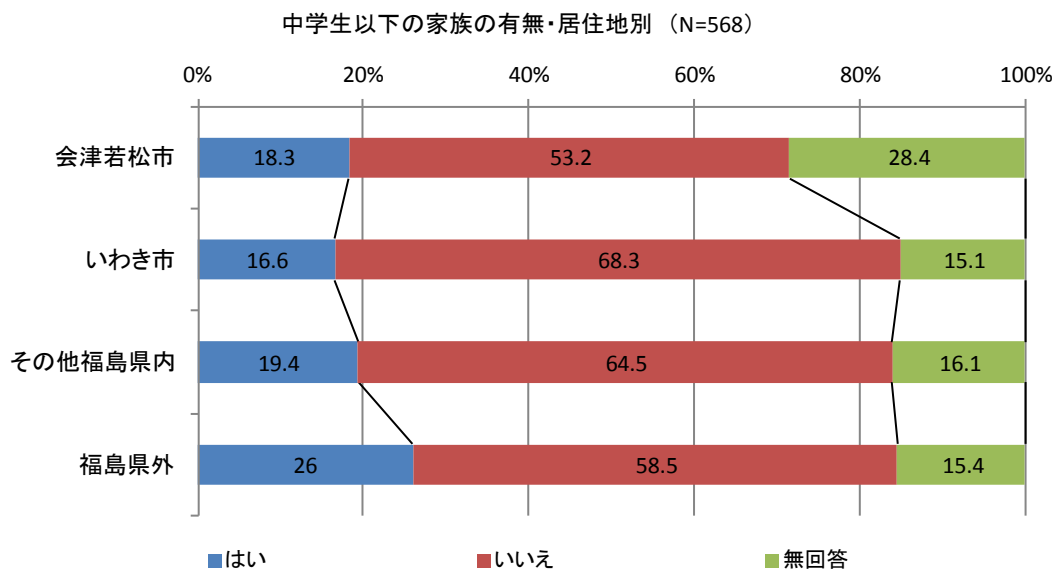
Q2 同居されているご家族(あなたご自身も含む)について (N=568)



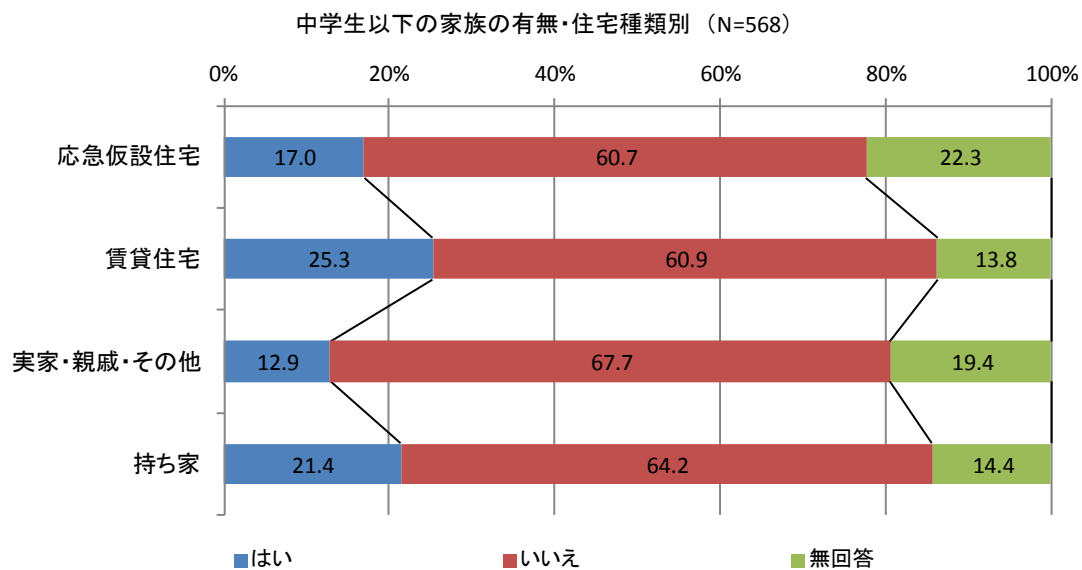
【参考】復興まちづくりビジョン策定時の同居されているご家族(あなたご自身も含む)について (N=958)



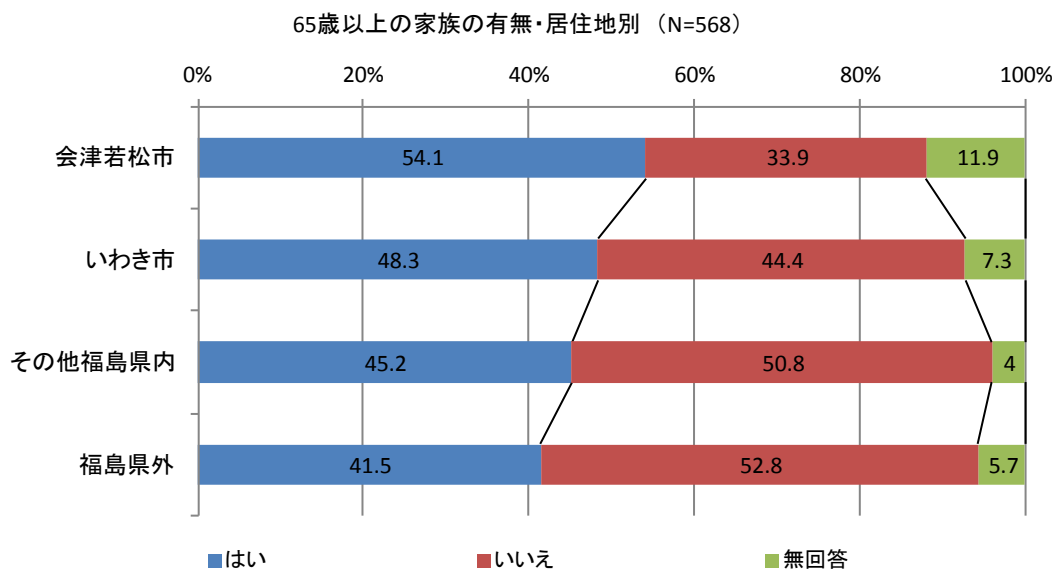
(居住地別)



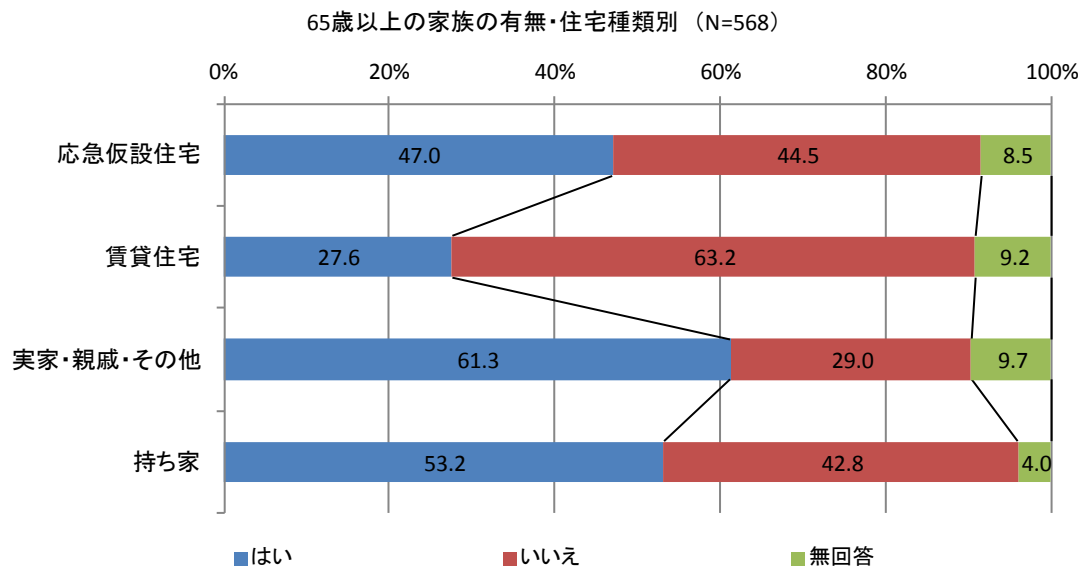
(住宅種類別)



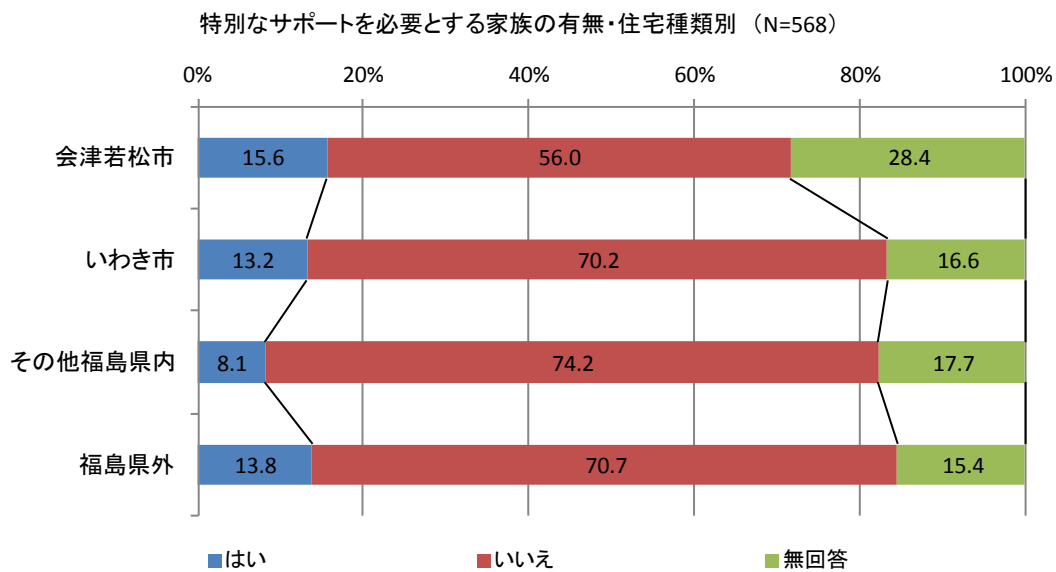
(居住地別)



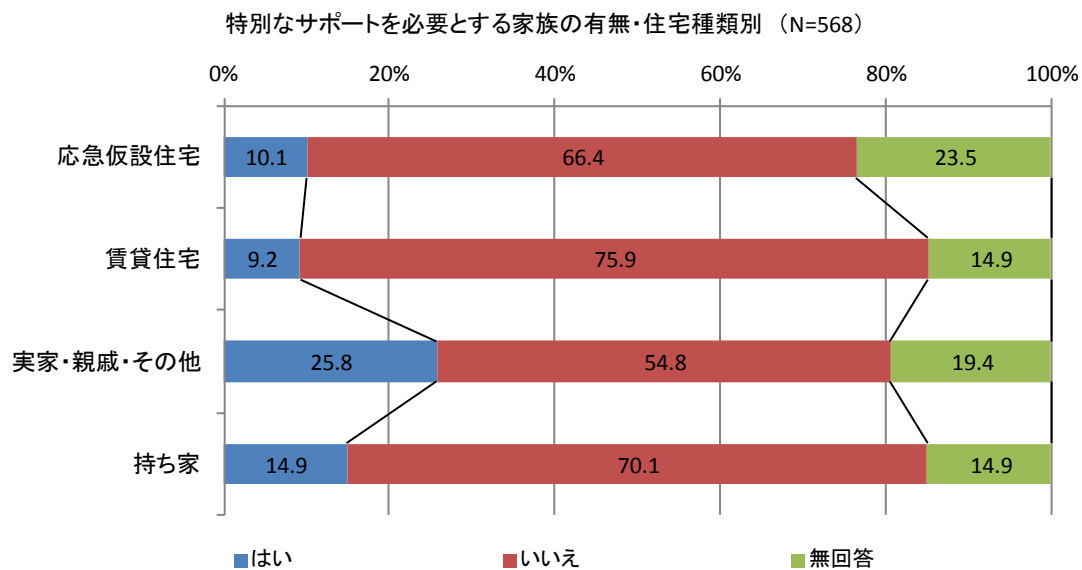
(住宅種類別)



(居住地別)



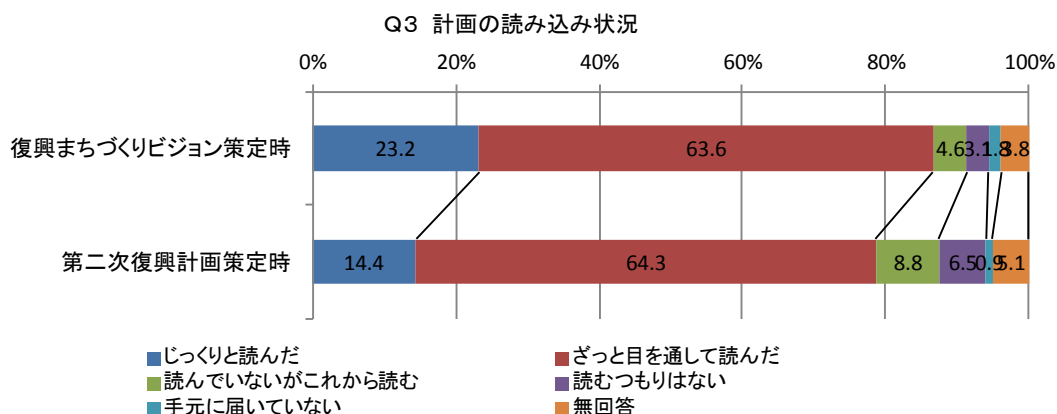
(住宅種類別)



■ 計画の読み込み状況

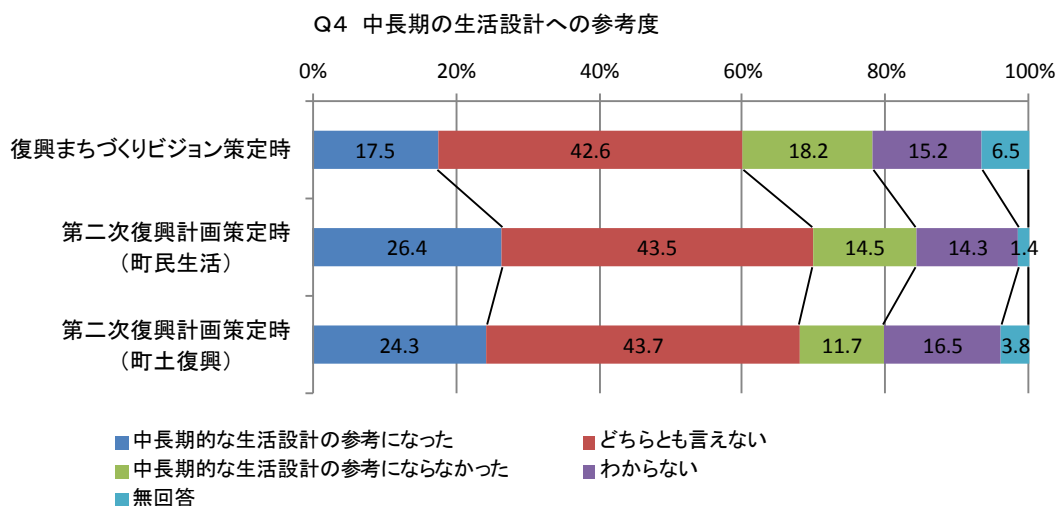
「じっくりと読んだ」方が全体の7分の1、「ざっと目を通して読んだ」方が全体の3分の2となっており、アンケートにご回答いただいた方の8割には読んでいただいている。

ただ、復興まちづくりビジョン策定時のアンケート（2014年1月実施）と比較すると、「じっくり読んだ」人の割合が1割ほど低下した一方で、アンケート回答時点で読んでいない方が増加している。



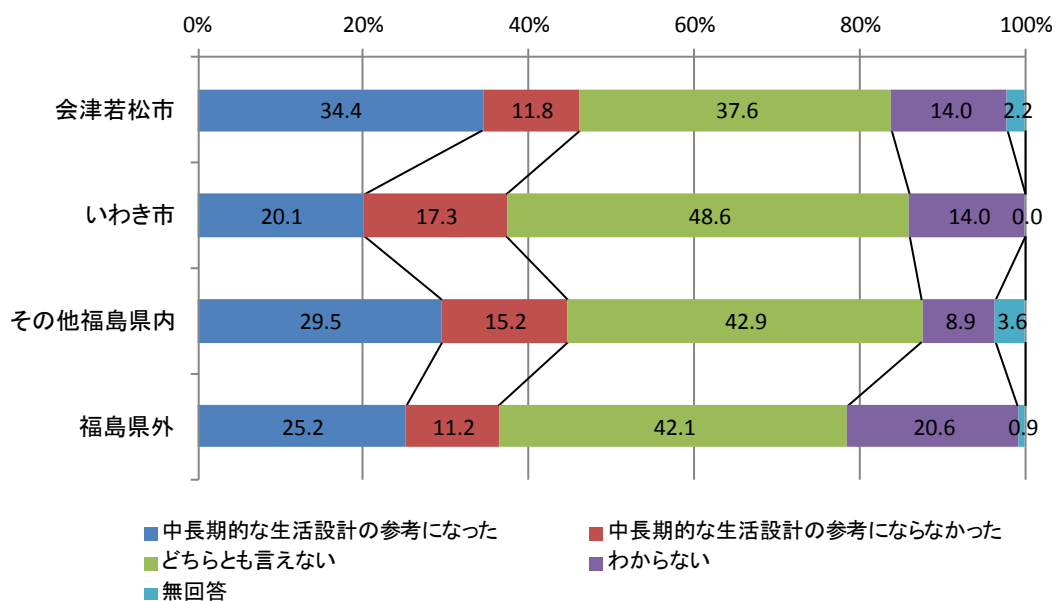
■ 中長期の生活への参考度

「中長期の生活設計の参考になった」方が、町民生活については26.4%、町土復興については24.3%となり、復興まちづくりビジョン策定時のアンケート（2014年1月実施）と比較して、「中長期の生活設計の参考になった」方が1割ほど増加した。



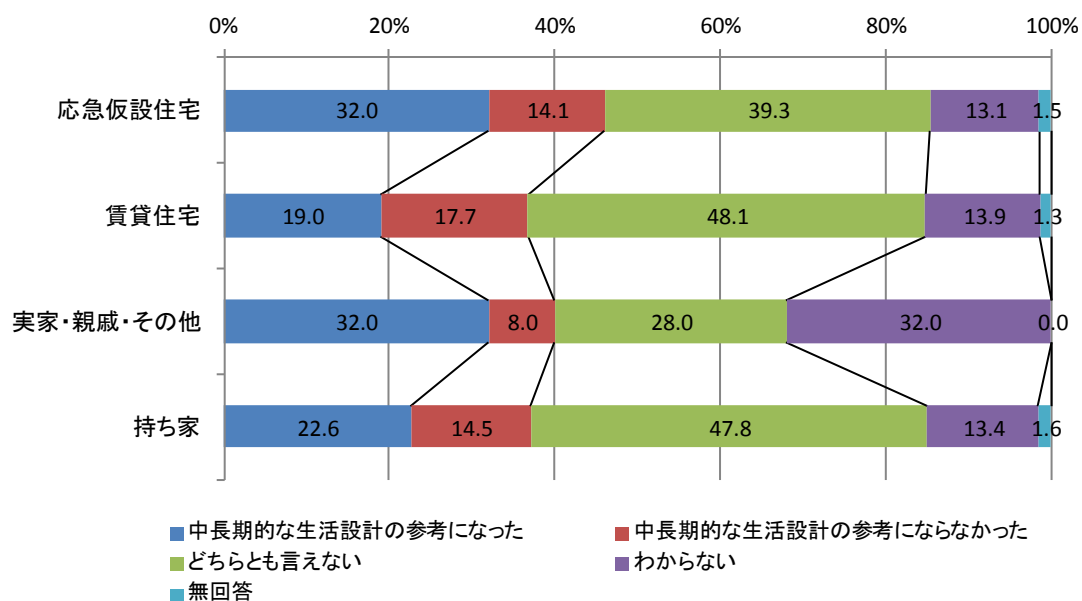
(居住地別)

中長期の生活設計に向けた印象・町民生活 (N=568)



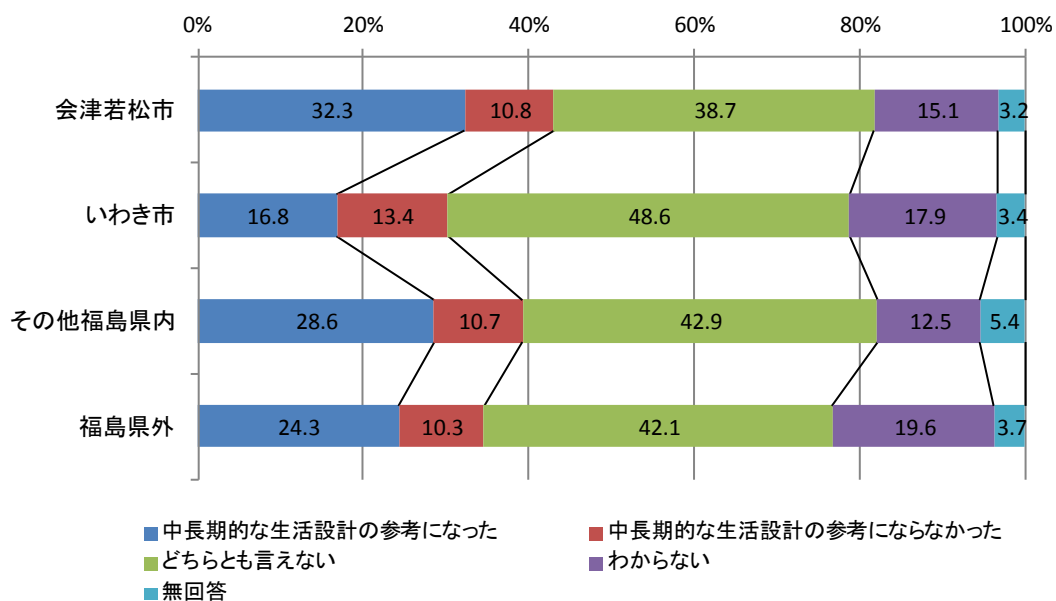
(住宅種類別)

中長期の生活設計に向けた印象・町民生活 (N=568)



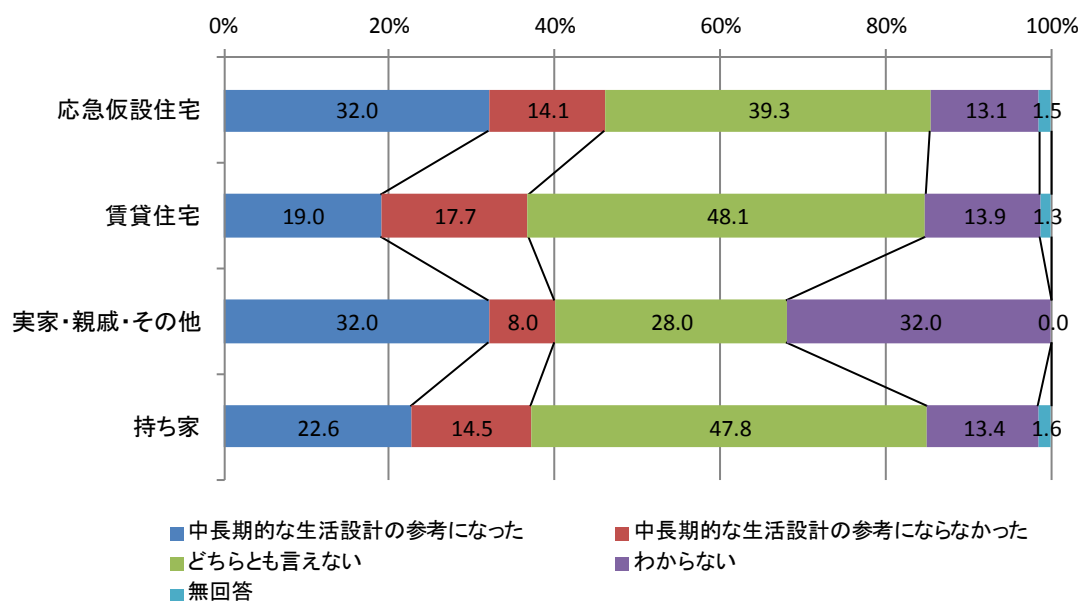
(居住地別)

中長期の生活設計に向けた印象・町土復興 (N=568)



(住宅種類別)

中長期の生活設計に向けた印象・町土復興 (N=568)



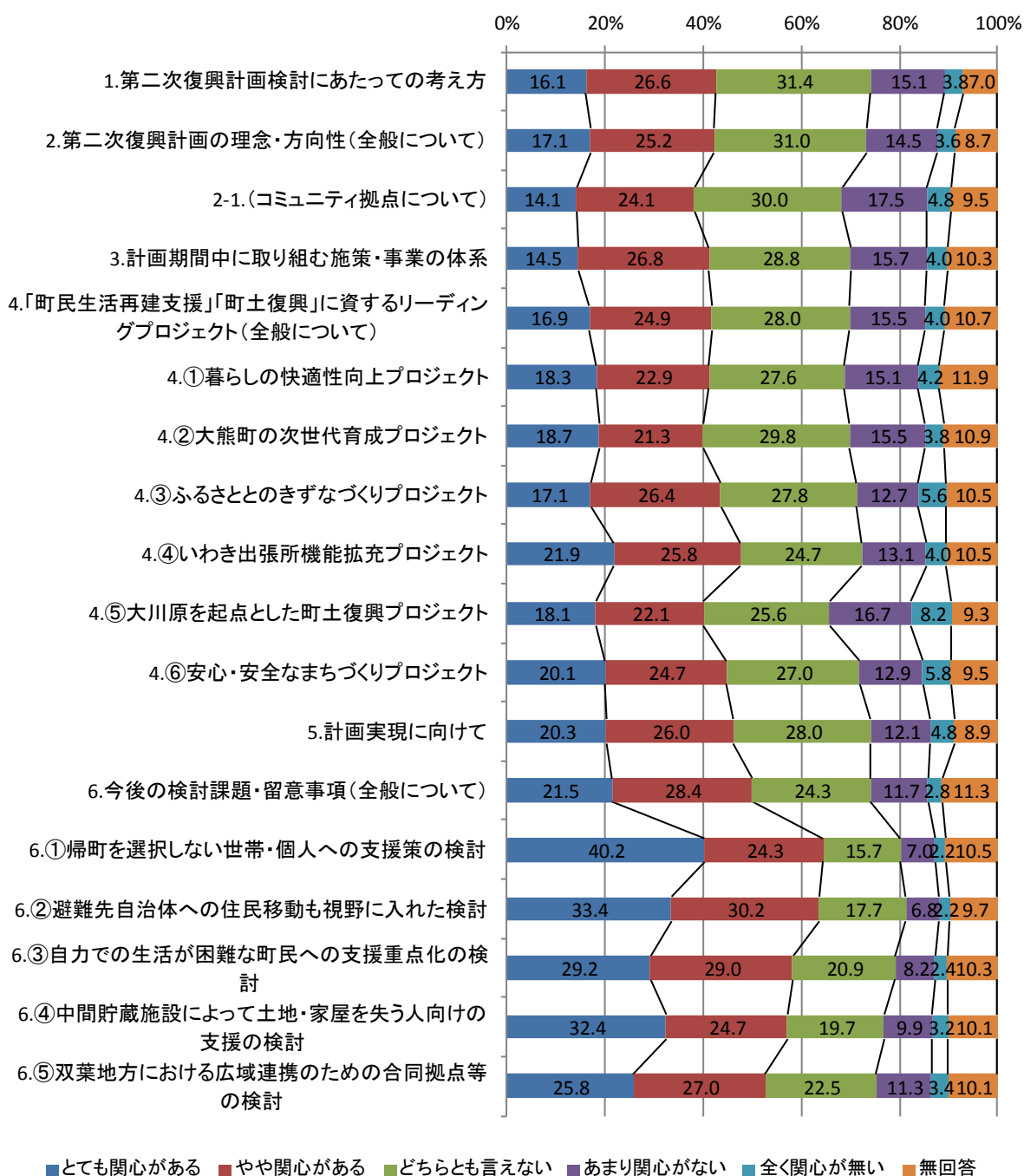
■第二次復興計画の各項目に対する関心度

最も回答者の関心が高い項目は、「6.①帰町を選択しない世帯・個人への支援策の検討」で、回答者の40.2%が「とても関心がある」を選択し、「やや関心がある」とあわせて6割を超える結果となった。

次いで「6.②避難先自治体への住民移動も視野に入れた検討」も、「とても関心がある」「やや関心がある」で6割を超える結果となった。

リーディングプロジェクトについては、特に「4.④いわき出張所機能拡充プロジェクト」と「4.⑥安心・安全なまちづくりプロジェクト」への関心が高かった。

Q5 『大熊町第二次復興計画(中間報告)』の内容についての関心度



■ 第二次復興計画の各項目に対する理解度

全般的に「6.今後の検討課題・留意事項」の項目に対する理解度が高い傾向となった。

またリーディングプロジェクトについては、特に「4.④いわき出張所機能拡充プロジェクト」で「理解できる」割合が高い一方、「4.⑤大川原を起点とした町土復興プロジェクト」では「理解できない」割合が高くなる傾向が見られた。

Q5 『大熊町第二次復興計画(中間報告)』の内容についての理解度

